

#### 第4回「地域フォーラム」概要

開催テーマ 「奈良のまちづくりと土地利用のあり方」

日時 令和3年2月21日(日) 13時30分～15時30分

会場 天理市文化センター

資料説明	荒井奈良県知事
<p>大阪のベッドタウンとして発展してきた奈良は住居系が多く、商業系・工業系の土地利用が少ないため、雇用と消費を他地域に依存している状況です。土地をうまく利用すれば、住みやすい地域になることから、土地利用を変えられるかどうかというのが大きなテーマです。</p> <p>土地利用の課題としては、住工混在化が進んでいること、耕作放棄地の重課制度が活用されずその数が増加していること、適正な管理がなされていない森林が増加していることなどが挙げられます。</p> <p>これらの課題に対して、これまでは、県で土地利用のマスタープランをつくり、解決していくというやり方でしたが、それを地域で考えましょうというのが奈良県の提案です。どのようなまちにするかなどのビジョンは、地域の住民の方から出してもらうのが一番だと思います。</p> <p>解決にあたり、本県では、特定農業振興ゾーンの活用や恒続林の維持、森林を管理するフォレストの養成などに取り組んでいます。</p> <p>また、まちづくりでは「都市と農地の共生」が重要なテーマであり、現在、磯城郡3町と県において、大和平野中央プロジェクトとして検討を進めていますが、この東部でもいい知恵が出るように思います。</p> <p>今日は、まちづくりのスタートアップですが、これから色々な議論を重ねていければと思います。</p>	

資料説明	並河天理市長
<p>天理市では、立地適正化計画を立て、各エリアの特色に応じたまちづくりを進めてきました。</p> <p>天理駅周辺地区では、多世代が集える天理駅前広場コフフンの整備、前栽駅周辺地区では、市立メディカルセンターを中心とした医療・介護・福祉の充実、西地区では、民間宿泊施設の建設など京奈和道の成果が見えてきました。また、北地区では、学校と地域の連携による放課後学習塾の運営、南地区では、柳本駅の一部を観光・地域交流センターとして整備し、高原地区では、空き家を活用した移住促進に取り組んでいます。</p> <p>今後も、まちづくりにおける職住バランスを考え、インキュベーションやテレワークによる雇用創出など、各種取組を進めていきます。</p>	

意見	荒井奈良県知事
<p>天理市には観光、工業、農業と色々な要素があり、その要素をまちのどこに配置するかが市長の腕の見せどころだと思います。</p> <p>観光では、眺めの良い山の辺の道が一つの観光資源になっており、農業においても、とても優良な農業地です。また、高架を利用した駅の発展が一つのテーマになると思います。</p> <p>どのようなことをテーマに考えるかという観点で、とても楽しみの多い地域です。</p>	

資料説明	松井桜井市長
<p>桜井市では近年、住宅開発により住工混在化が進んでおり、その解決に向け、住民とともにまちづくり計画を作成し、その実現に向けて取り組んでおります。</p> <p>その取組を行うにあたり、桜井市では、まちづくりビジョンとして三つの考え方を基に進めています。</p> <p>一つ目は産業の振興によるまちづくり、二つ目が福祉・医療・教育の充実したまちづくり、三つ目が多極ネットワーク型のまちづくりです。その実現に向け、立地適正化計画を作成し、桜井市のまちづくりがいよいよ本格的に動き出しました。</p> <p>今後、桜井市では、農業と工業のバランスの取れた地域づくりを行い、市内における働く場所の確保並びに農業・工業の生産性の向上を図っていきたいと考えています。</p>	

意見	荒井奈良県知事
<p>桜井市でもまちづくりを進めていますが、短期間で効果があるものと、もう少し先になるものがあります。長期的に返ってくるような税源涵養として民間事業に来てもらい固定資産税の増やすことや、県内消費の拡大が必要です。また、観光や工業などの分野において、市町村間の連携も必要ですが、競争で地域を振興させることも大きなことだと思います。</p>	

資料説明	金剛宇陀市長
<p>宇陀市のまちづくりの課題としては、産業ゾーンが市街化調整区域にあり利用が困難なこと、榛原駅前のまちづくりが進んでいないこと、生産年齢人口の流出などが挙げられます。</p> <p>これらの課題の解決方法として、一つ目は地区計画制度の活用による小規模特区の設定、二つ目は室生エリアにおける産業用地の創出、三つ目は榛原駅前広場のリニューアルと周辺大規模敷地の有効利用、四つ目は特定農業振興ゾーンの設定による農業振興、五つ目は企業と連携したまちづくりに取り組んでいます。</p> <p>今後も土地利用の課題解決に向け、商業系、工業系の地区計画を進めるなど、これからの宇陀市の可能性をしっかりと伸ばしていきたいと思えます。</p>	

意見	荒井奈良県知事
<p>宇陀市にはレベルの高い野菜がありますが、もっとブランド化を図り、うまくネーミングすれば、さらに知名度が上がると思えます。</p> <p>また、ドイツのシュタットベルケのように、バイオマスなどの自然エネルギーを宇陀市の地域電力として供給し、農業や産業の分野に活用するという発想もあり得ると思えます。</p>	